

最先端の政治学



拓殖大学 政経学部
浅野正彦



1



講義メニュー

- I. 確率のお話
- II. 政治学とは？
- III. 最先端の政治学とは？
 1. ウクライナへの軍事介入と正確な知識
 2. 政党支持と脳の活動
 3. テキスト分析
 4. ウェブ・スクレイピング
 5. 爆撃による被害と支持の関係
 6. 候補者の笑顔と票の関係
 7. 選挙でイケメン度は重要か？
 8. 投票者は嘘をつく？
- IV. 本当にそうなのか？
- V. 政治学で使われているデータ
- VI. 新しい時代に何を学ぶべきか？

2



ポリティカル・サイエンス Political Science

①「当然」だと思っている ②噂程度にしか知らない



本当に「そうなのか？」



本当は「どうなのか？」

膨大な「数量データ」と「統計的手法」を使って検証する

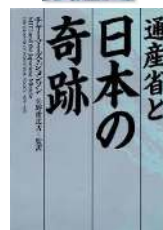
3

3



IV. 本当にそうなのか？

- 日本政治は「官僚」が支配している？



V.S.



4

4

早大医学部構想どうなる？「世界で輝くための改革」総長らが語る

おすすり 00 ツイート 00

香川県大 地方版 2019.3.21 08:00 山田 早大医学部
専門にたれない、に中たくなる...日本の未来の課題は何か？



世界が求める人材輩出に向け、早稲田大学の改革を断行する田中聖治総長。医学部拡張やライバル慶應について、米国の名門・イエール大のフランス・ローゼンブルグ教授と語り合った。

＊ ＊ ＊

田中：世界が大きく変化している中で、変革しないと取り残されるという強い危機感がある。早大が世界で輝くためには改革が不可欠です。

取り組みの一つに理工学連携のさらなる推進と医学部構想がある。現在、医学部の教育・研究は医学博士だけでは不十分。電子顕微鏡や人工心臓、AIによる診断など他分野が高度化し、理学博士や工学

5

第二世紀へのメッセージ

早稲田大学にゆかりのある方に、早稲田の魅力や目指すべき姿を語っていただきます。

今回は、早稲田大学理事に就任されたフランス・ローゼンブルグ教授（イエール大学）に早稲田大学との実りや、今後の意気についてお聞きしました。

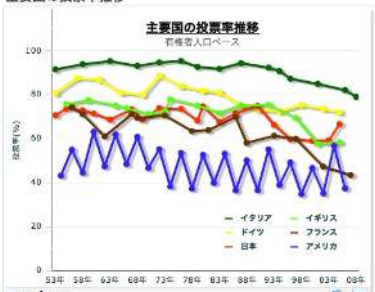


6

本当？

- 低い投票率は政治不信の表れである。

主要国の投票率推移



主要国の投票率推移
新集票人口ベース

投票率(%)

53年 58年 63年 68年 73年 78年 83年 88年 93年 98年 03年 09年

イタリア イギリス
ドイツ フランス
日本 アメリカ

7

本当？

- 日米安保は、戦後の経済成長にとって重要だ。

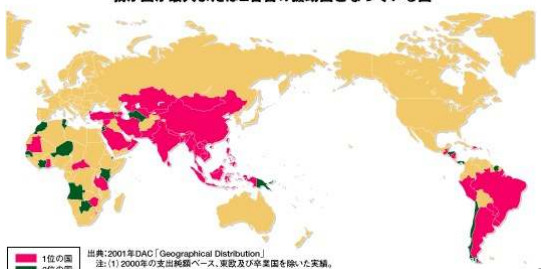



8

🔊 本当？

- 途上国への援助は、被援助国の援助国に対する好感度を高めている。

我が国が最大または2番目の援助国となっている国



出典: 2001年DAC「Geographical Distribution」
注: (1) 2000年の支出削減ペース、東欧及び中東国を除いた実績。
(2) 一部地域は除く。

9

🔊 本当？

- 貧困はテロリズムの温床である。



10

🔊 本当？

- 最高裁判所の判決は、政治的に中立である。



11

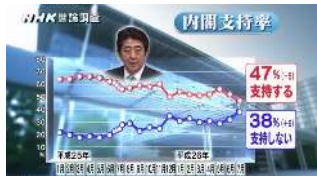
V. 政治学ではどのような統計データが使われているのか？

12



～ 2000年頃まで

- 調査データ
 - ― 世論調査
 - ― エリート調査
- 集計データ
 - ― 国・地域別
 - ― 都道府県別
 - ― 選挙区別
 - ― 市町村別



13

13



2000年～現在 「データ革命」

- インターネット上のあらゆるデータ
- デジタル化されたテキストデータ
- 人工衛星から撮影した詳細な写真や地理情報
- 自動顔認証技術
- その他多数



14

14

VI. 新しい時代に何を学ぶべきか？

15

15



新しい政治学を学ぶために必要なのは・・・

自由な発想

- 旺盛な好奇心
- 他分野から学ぶ
(社会学・心理学・脳科学・データサイエンスなど)
- 様々な国や地域に実際に行く

それを実現するスキル

- 統計学、計量政治学
- コンピュータ言語・統計ソフト
(R, Python)
- Data Visualization
- 英語(外国語)

16

16